

## 一般科目

### 英語～速読演習

従来型の英文解釈・英文読解ではなく、さまざまな話題を扱った平易な英文を素材にして、英文の速読のコツを身につけていく。テキストには英文や練習問題を吹き込んだCDが付録としてついているので、ネイティブの生きた英語に触れることによって、リスニング能力の向上も目指す。現代の英語の世界への入門講座である。

### くらしとマルチメディアⅠ ～情報処理演習Ⅰ

マルチメディアをくらしの中で積極的かつ有効に活用するために、エンドユーザとしてコンピュータやネットワークを活用する基礎的知識を学ぶ。インターフェイスの開発によりコンピュータの操作は以前に比べて非常に容易になったとはいえ、現段階ではまだある程度の知識が必要とされる。そこで、実際にコンピュータに触れながら、コンピュータの扱いに慣れることに重点を置き、ツールとしてのコンピュータの使い方、ワープロソフトを中心にソフトウェアの使い方、インターネットの活用を習得する。また、インターネットの活用を通して、情報倫理について考える。

### くらしとマルチメディアⅡ ～情報処理演習Ⅱ

「くらしとマルチメディアⅠ」でコンピュータの基礎的な活用を習得したと同程度の学生を対象に、表現媒体としてのコンピュータ活用の習得を目指す。実習では表計算ソフトによる情報処理、プレゼンテーションソフトの活用を行う。

### 論文の書き方

卒業研究を念頭において、文章を書くにあたって必要な論題の設定から情報の収集、構想の整理など論文作成の基本的な知識を学習する。

### 法学（日本国憲法）

憲法は前文に、基本目標は自由の確保、国際協和、戦争の放棄にあり、基本性格は国民主権、国の最高法規であると述べている。人間の尊厳性は、人間の自由な活動範囲を通して人格の自由の発展の中で維持高揚される。憲法には、生命権、自由権、幸福追求権を最大限尊重する規定があり、これをテーマとする。

### 体育理論

運動の必要性や大切さを知ること。及び、日常生活に必要な身体的・精神的体力を手にすることが出来ない児童、生徒に対する援助、また、運動の楽しさを児童・生徒が体得し、継続できるようにするための理論と方法論を学ぶ。

## 専門基礎科目 必修

### 人間科学概論

人間は地球上で最も進化した生物であり、言語や文字を獲得し哲学、科学、宗教、芸術等高度な文化を創りあげてきた。一方、世界各地の紛争にみるとおり、人間は未だに争いの本能を持ち続けている。このように、心身ともに複雑な構造をもつ人間の特徴を科学的に学び、生きることの意義を考える。

### 行動科学概論

人間行動の生物学的特質や、個人ならびに集団における人間行動の原理を明らかにし、より科学的な人間行動の理解を目指す。行動面の特徴は、日常生活の対人関係や人と接する態度にも表れやすい。そのような行動特性が病気の成り立ちや経過にも影響を及ぼす点についても学習する。

### 生命科学概論

本科目は「人間とは何か」を理解することを目標とする。そのためには「人間の生命科学」について総合科学として考える必要がある。そのため、まず、生物学的存在としての人間の特徴について、生命とは何か、生命体の特徴、生命現象の生化学的な理解及び人の生命の誕生などの観点から考察する。さらに、精神的、社会的存在としての人間について、哲学及び進化、生命倫理等の観点からも考察し、人間について総合的に科学する。

### 文明科学概論

21世紀以降、脳科学や生命科学といった自然科学の新たな知見や、現代人の心の領域に関する病理の問題の顕在化などの潮流の中で、現代を生きる人間を理解するためには、人それぞれの内なる文化の変化といった面に焦点を絞らなければ、本学のめざす「人間とは何か」を問うことができない局面にきている。そこで、本科目では、人間存在を探究してきた哲学や人間の創造性の結実である美に関して、さらには人間の心の基底に存在する宗教、そして生物の進化から人間への進化の過程などを見渡し「人間の総合的理解」のための社会・文化領域の構築を図る。

## 総合科目 選択必修

### 人間科学論

高度に発達した文明社会に生まれ育つ現代の人間は、豊かな文明を享受できる一方で、急速に変化していく自然的・社会的環境に適応することを迫られている。こうした環境の変化が身体に及ぼす影響について学び、心身ともに調和のとれた生活の営みを考える。

### 健康科学論

健康とは何か、健康をどうとらえるのか、健康に生きるとはどういうことか、などについて考え、健康な心身の状態、健康に影響を及ぼす環境についての理解を深める。健康を支えている社会的、経済的な基盤はどのようなものかについて学ぶ。こうした学習を通じて、健康を守り増進するための具体的な行動についても考える。

※科目は一部変更になる場合があります。

### ストレスと健康

ストレスは、生活習慣病をはじめとする多様な疾患に関与することが知られている。現代人にとってストレスは日常的な存在であるが、同様のストレス環境下にあっても健康を損なう場合と維持できる場合があり、またストレスを悪い意味に限らず良い意味にも捉える考え方も出てきた。ストレスへの理解を深め、健康を維持するための知識を得ることが、「よりよく生きる」ことにつながる。本講義は各専門分野の5人の教員によるオムニバス講義により、ストレスとは何かを学際的に展開する。

### 心身医学

心と身体の密接な関連性を重視し、心身両面から総合的にアプローチする心身医学は、臨床医学の基幹となる学問分野である。健康維持や生命（生活）の質を向上する上でメンタルヘルスやメンタルケアの重要性を学ぶとともに、自律神経・内分泌・免疫系の関与といった内部環境から、心理社会的ストレスや性格要因といった外部環境まで幅広い視点から心と体のつながりを学習する。

### 生命倫理学

遺伝子操作、生殖医療など生命科学、医学の技術進歩に伴う、現代の直面している社会的問題や環境と人との関係を題材としてその意味を探究する。複雑化している状況の中での「生命」のある場、あり方、それを巡る人々の思索や行動、社会の動勢を学ぶことで各人の持つ生命観を深めていくための礎とすることを重視する。

## 分野別科目 選択必修

### こころ・精神の理解

### 発達心理学

発達をいのちの誕生から死にいたるまでの期間と幅広くとらえ、その中で私たちが人間らしいこころを成長させるには何が必要かについて考える。私たちがこの問題について考えていくためには、基本的なこころの発達についての知識を持つことが前提になる。受講することで単に知識を増やすだけではなく、その知識をもとに子育て、不応、中高年のこころの問題など私たちの身近なこころの問題について自分なりの見解を持つ際の足がかりとなることを願っている。

### 青年期心理学

青年期は、生涯の中でも周囲の状況に敏感で影響を受けやすい時期と思われる。そのため数年前の青年期の記述が時代遅れに感じられることも少なくない。表層で変化していく青年像を理解するためには、それでも変わらずにある青年期の本質について考察することが必要と思われる。発達の中での青年期、親との関係をはじめとして青年期の本質について可能な限り生物学的・心理学的・社会学的な広い視点から考えたいと思う。

### 産業心理学

現代の産業社会における人間心理について分析検討していく。仕事への動機づけの問題、能力開発の方法、職場における人間関係、職場適応とメンタルヘルスの実際、ストレスマネジメント、先進テクノロジーと人間の問題、労働安全衛生管理体制の中での位置付け、作業環境と精神衛生、快適職場づくりの実際、消費者行動の心理などについて考える。

# 講義内容（抜粋）

※科目は一部変更になる場合があります。

## 社会心理学

社会心理学とは、社会的事態、環境、文脈が個人の認知、感情、行動意図、行動等に影響を及ぼす過程を研究する学問である。本講義では、個人心理学、社会学、文化人類学、精神医学など様々な分野での知見を取り入れながら、個人対個人、個人対集団、集団対集団の関係に着目し、より健康な関係を築くための対人コミュニケーションについて学ぶ。

## 中・高齢者の心とメンタルヘルス

中年期以降の心的特性を理解し、現在、行政や企業等で行われているメンタルヘルス、あるいは福祉という視点におけるメンタルヘルスに対し、多角的な評価とよりよい対策をある程度立案できることを目標とする。中年期・老年期における男女の、個と環境の組み合わせによる負荷を整理したり、実際の事例にそってメンタルケアの今後を考える。

## がん患者の心身医療

患者の死ぬ権利や安楽死が問題となっている現代において「生」の対極にある「死」をどのようにとらえ、どのようにして死を受け入れていったらよいかを学ぶ。人間がどのように死を受けとめてきたか、主観的な死と客観的な死の違いなど、内外での死生観の歴史や系譜を概観する。また、死を受容するにあたって、死の準備教育の必要性和グリーフ・セラピーのあり方およびその方法を学ぶ。

## 精神分析・交流分析

精神分析を基盤とし、精神的自立に役立つための実効ある心理療法の理論として発展した交流分析。交流分析のすべての理論を統合し、人格の分類および治療法に結びつけた人格適応理論を学ぶ。『人間関係論』のスクーリングを受けたのちに『精神分析・交流分析』のスクーリングに参加することが望ましい。

## カウンセリング論

人への心理的援助に対する社会の期待は非常に大きくなっている。カウンセリング論では人を援助する役割を持つ人がカウンセリングの勉強を開始する際に必要な内容を学習する。この際にカウンセリングのために必要な知識を学習することが必要なのは言うまでもないが、援助を求めるとして提供される側との関係の在り方について考えること、援助者としての自分のあり方から目を背けずにいる姿勢が必要である。以上についても学べるように工夫したいと思っている。なお可能なら人間の心の発達の基本的事項をきちんと理解するために発達心理学を事前に受講することを勧める。

## カウンセリング実践

カウンセリングは、日常生活が営めないという「マイナス」状態にあるクライエントを、ひとまず日常生活は営めるという「ゼロ状態」へ移行できるよう、援助することである。本授業では、行きつ戻りつの複雑な歩みをたどることが多いカウンセリングプロセスについて、クライエントの様々な気持ちやカウンセラーとクライエントの非言語的なコミュニケーション、カウンセリングプロセスでのクライエントの感情体験等について、実習を交えながら体験的に学ぶこととする。

## 現代家族論

家族形態の多様化が進む現代社会における「家族」のもつ意味を、個人の自己実現の過程にとっての役割という視点から考える。家族のシステムと個人の行動パターンの関連性を検討することにより、より満足な生活を送るために主体が選べる行動の可能性や、「自律性」の意味と内容を考える。

## 心の防衛機制と反応

無意識のうちに行われるところの動きを理解する基礎理論として精神力動論に立脚し、自我の防衛機制とところの反応について学ぶ。この過程を通して現実場面で個人あるいは対人関係の中に生じる様々なところの現象を捉える上で考え方や感性を養うことに主眼を置く。

## 認知心理学のすすめ～知覚・思考・意識 - 無意識の科学

認知心理学では、自然あるいは社会が人間の感覚を通してどのようにとらえられ、それが人間の思考、行動にどのような影響を与えるかを学ぶ。さらに、知覚・記憶・思考のしくみなど最近の脳科学が提供する視点にも触れながら、認知心理学の広範な領域について学ぶ。なお、近年発達著しい生理学的、生態学的トピックスも補完する。

## 教育心理学

教育とは、知識の伝達によって文化を継承していくための、人間社会のもっとも基本的な営みのひとつである。教育に関わる心理学的諸問題を扱うのが教育心理学であり、学習心理学、発達心理学、人格心理学、社会心理学、臨床心理学など、幅広い心理学の研究領域が包括される。本講義では、教育に関わるこれらの心理学の研究分野について、平易に解説する。

## 臨床心理学実践

「臨床心理」の「臨床」とは、「クライエントの傍らに在ること」を意味している。すなわち、「臨床心理学実践」とは、クライエントの傍らに在り、臨床心理学的な理解のもとに介入を行うことで、クライエントの人間性成長やその際起こる心理的な障害からの回復の援助を目指すことである。そして、「心理療法」とは、それらの実践をある「立場（学派）」の持っている人間理解と介入技法を使って行うものと理解できる。

本講義では、このような理解のもとに、臨床心理学の基本、臨床心理学的な人間理解、さまざまな臨床心理学的な援助の方法などについて、実践的な観点から学んでいく。

## 心理学概論

人間の精神活動を総合してこころの働きと考え、それがいかなるものなのかを探求しつづけているのが心理学である。その領域は感覚・情動・思考・記憶・学習・発達等の研究からその研究の知見を社会・臨床などに活かしていく実践に及ぶ。本講義では心理学の基礎から最近のトピックまでを広く学ぶことを目的としている。二年目からの学習に備えて行動科学概論と併せて初年度に履修することが望ましい。

## 心理学研究法

実験や観察の方法、質的・量的なデータとその取り方、統計法、レポートの書き方など心理学を学ぶ上での基本的な研究方法を学ぶ。

## 心理統計学

本講義では、心理統計学のごく基礎的な概念と手法を学ぶ。今や、パソコンの各種統計ソフトを使えば、統計の専門知識がなくとも瞬時に分析結果が手に入る時代になった。その分、不適切な統計の用い方をしていることに気づかないことや、せっかく得た結果を持って余す光景もよく見られるようになった。本講義ではExcelを使って実際のデータ分析を行う。

## 心理学基礎実験Ⅰ・Ⅱ

本講義は心理学基礎実験(樹)と鑑からなる。いずれも小グループに分かれて、基礎的な心理学実験を行う実習である。学生自らが実験者・および被験者として参加・体験する。また、データ収集・処理・推計学的検定などの作業を通して、心理学の実験的技法・実証的技法の知識を学ぶ。さらに、Ⅰでは実験レポートの書き方、Ⅱでは実験研究の発表の仕方を身につける。尚、Ⅰを受講するためには「心理学概論」および「心理統計学Ⅱ」の単位を取得すること、WordとExcelの基本的操作ができること、Ⅱを受講するためには先にⅠの単位を取得することなどの条件が求められている。

## 心理検査法実習Ⅰ・Ⅱ

本講義は心理検査法実習ⅠとⅡからなる。いずれも小グループ、もしくは2人1組に分かれて行うⅠでは心理検査を自ら実施・採点することによって、検査法そのものに馴染むとともに、人格・発達・その他の側面に関する基礎心理学的理解を深める。Ⅱでは、複数の心理検査の結果から、実際に検査所見をまとめてみる。尚、Ⅰを受講するためにはWordの基本的操作が可能であること、Ⅱを受講するためには先にⅠの単位を取得することなどの条件が求められる。

## 学習・発達論

発達の途上にあるすべての幼児、児童、生徒の基本的な心身の発達の特長について理解するとともに、障害をもつ子どもたちの各々の障害に応じた特性を十分に理解し、学校において子どもの成長促進的な適切な対応が可能になるための基本的な知識を身につける。

## 精神保健

精神障害者の健康問題は、精神保健にかかわる社会的問題を示している。また心身の不調や生活上の問題に悩む人々の支援体制を把握すると共に、精神障害者を中心とした自己決定への取り組み過程、相談活動の場としてセルフヘルプグループの役割と機能、地域精神保健活動のあり方を幅広く学習する。

## 精神看護

精神看護の基本となる心を病む対象者を理解し、基本的な精神看護の概念、精神疾患の病態生理、治療、精神科リハビリテーションを幅広く探求する。また人間行動や生活環境の理解に関する知識と、精神看護の社会的な役割と看護実践に応用する理論法について知識を身につける。

# 講義内容（抜粋）

※科目は一部変更になる場合があります。

## からだ・保健の理解

### 人間関係論

個人のもつ人間関係と、精神発達や精神生活、あるいは病理との関わりは、臨床心理学の歴史のなかでどのように考えられてきたのか、この点に着目しながら、S.フロイトの精神分析からE.バーンの交流分析までの人間観の系譜をたどる。さらに、現実的な人間関係のとらえ方、および、対人関係をより自律的で健康的なものとする主体の行動変容に役立つ実践的な理論を、交流分析の心理療法としての手法に学ぶ。

### 身体の構造と機能

人体を形づくっている要素で、一定の形態と機能をそなえたものを器官という。いくつかの器官がまとまって一連の働きをするとき、その系統を器官系と呼ぶ。消化器系、神経系、循環器系などの器官系の構造と機能を学び、人体を正しく理解するための基礎知識を習得するとともに、器官の異常が病気となって現れるメカニズムについても考察する。

### 栄養と代謝

私たちは様々な栄養素を食事や間食から摂取している。この科目では、栄養素が①エネルギーとして利用される仕組み、②身体を作る仕組み、③身体の動きの調節の仕組みを最初に学ぶ。最初は小・中学校で勉強した基礎的な知識を思い出しついでに、栄養の働きを順序よく学び、生活に役立つ「食の知恵」を学習する。さらに、最近の話題の、「ダイエットと栄養不足」、「肥満とメタボリック症候群」、「高齢者にこそ肉食を」など、現代社会における食の問題点についても学ぶ。

### 脳科学論

心のハードウェアである脳の構造と機能を分子レベルから個体の行動レベルにわたって解説し、脳に関する基礎的な知識を整理するとともに、われわれの心を生む脳に関する最近の知見や神経・精神疾患に関する知見の現状を紹介する。

### 病気の成り立ち

人間は誰もが健康で天寿を完うすることを願うが、人生は常に病気と背中合わせである。ここでは、病気とは何か、健康と病気の違い、病気が起こるメカニズム、症状と病気の関係などについて理解する。病気が起こる仕組みを正しく理解し、病気の予防に対する適切な心構えや病気に立ち向かう姿勢の獲得を目指す。この講義は「身体の構造と機能」を受講してから学んだ方が理解しやすい。

### 臨床薬学

くすりは、病気の治療、予防、診断に役立つ化学物質である。このくすりをいかに体に適正に使用できるかの基本的概念を学ぶ。くすりの役割は何か。投与経路、剤型によるくすりの働き方の違い、くすりの注意すべき副作用、高齢者、妊婦、小児への薬物投与の問題点などを理解する。また、くすり体内に吸収された後の分布、代謝、排出、血中濃度など、くすりの動態についても学ぶ。

### 保健学

健康は、人としての生活を楽しみ、社会的に活動するための必須条件である。保健学は、健康の保持増進、疾病予防のための学問であり、人間総合科学を学ぶ学生の重要な専門科目である。健康についての考え方、健康指標、環境保健、疫学の原理と技法、疾病の予防、健康の増進・管理、ライフステージにおける健康問題、などを学ぶ。

### 女性のからだと健康

人間のからだは生涯を通して変化する。からだの変化は基本的に遺伝子によって決められているものの、環境の与える影響が大きい。女性が社会で活躍し、女性の生き方が多様化する中で、生涯を通して変化する女性のからだのしくみを正しく理解し、心身共に健康な女性の生き方を考える。

### 高齢者のからだと健康

長寿社会の実現しつつある現代において、単なる長生きを願うだけでなく、精神的にも身体的にも健康で充実した人生を全うすることが求められている。高齢者の精神的、身体的特徴を学び、健やかに老いることを考える。

### 自律神経生理学

心臓や血管、胃腸、膀胱などの内臓には自律神経がくまなく張り巡らされている。自律神経は無意識のうちにこれらの内臓の動きを調節している。血圧や体温などの全身状態がある範囲内に保たれ、健康的な生活を送ることができるのは、自律神経が働いているためであることを理解する。

### 運動生理学

身体運動には身体を支える骨格、骨格を動かす筋肉、筋肉の収縮を調節する神経系の働きが必要である。運動時には循環・呼吸・代謝などの全身の身体機能も適切に調節される。運動に関わる身体の諸機能について理解し、健康的な体づくりを考える。

### 環境とホルモン

地球上で全ての生物は、地球の自転の周期である24時間周期に適切して生活している。人間には、脳内に体内時計があり、また体内には外界の環境要因に細かく適用するシステムがあるが、環境汚染が進みつつある中で、人間の脳と内分泌系を攪乱するホルモン様物質（環境ホルモン）がいま問題となっている。このコースでは地球環境からの情報によって生きてきた人間が、人間自身が地球環境を壊さないようにするにはどうすればよいかを多面的に考察する。

### 健康教育概論

健康教育とは、一般の個人あるいは集団が、健康な生活を送るために努力することや、努力するように援助することである。健康教育の歴史、定義及び課題等を通してライフスタイルとヘルスプロモーションを考察し、さらに、健康に影響する要因と健康評価方法について学んだ後、健康教育の研究手法と評価方法を学ぶ。

### 応用看護学～感情と看護～

「人」としての患者と「人」としての看護者の看護場面での関わりを、近年の社会学の知見-感情労働論を中心に、ジェンダー論・セクシュアリティ論などを活用しながら学習する。各学生は、学習を手がかりにして、医療者・看護者としての臨床経験や、患者またはその家族としての経験による苦しみや葛藤を振り返りながら、医療や看護をめぐる諸問題について考察することを目標とする。

### 老化・寿命の科学

人にはなぜ「老い」と「死」があるのか。太古の昔から繰り返されるこの疑問を「why（なぜ老いる）」「how（いかに老いる）」の2つの意味から考えていく。最新科学の老化・寿命に関する研究と「死の生物学」の研究成果をもとに、「死の視点」から「老い」をとらえ直し、いまだかつて経験のない21世紀の高齢社会において、「老い」を有意義なこととして迎えること、「自分とは何か」「自分の夢」を追求することの意味は何か、を考えていく。

### 免疫学（アレルギー）

アトピー性皮膚炎、気管支喘息、アレルギー性鼻炎といった、いわゆる文明病といわれるアレルギー疾患が日本に出現したのは30年前ぐらいのこと。一方で、日本人が現在のよう「超清潔」な環境下で暮らし始めたのも最近の約30年という期間に過ぎない。そこで「超清潔志向」のもと「罪の部分」をとりあげ、アレルギー疾患について、また免疫力の低下や感染症について学んでいく。私たち日本人が目指してきた「健康」への追求が、はたして正しいかどうかをここで再考してみる必要があるだろう。

### 予防栄養学

予防栄養学 (Preventive Nutrition) は個人や国民を対象に、生活習慣病、食中毒、食物アレルギーなど、食品のとり方や食生活にかかわる病気を防ぎ、人々の健康増進に寄与することを目的としている。食品は人を病気にすることはありませんが、人は食品のとり方や過不足で病気になることがあります。ここでは栄養素の働きや栄養の偏りと疾病の関わりについて、どのような問題があるかを考え、病を予防するための新しい栄養学

### 生命と遺伝子

近年マスメディアを通して我々に身近な生命現象が取り上げられる機会が多く見られる。それは、生命の根本とも言うべきDNAの遺伝情報の解読により多くの生命現象が明らかにされ、応用できる段階にきたことによる。本講義では遺伝子の理解から始めて、現在話題になっている生命現象を遺伝子の観点から理解を深める。

### 生命のしくみ

#### ～生物史的なアプローチ～

人間のからだはどのような形態的・機能的特徴をもって存在しているのかを、生物史的観点から考察する。複雑に発達した現在の人間のからだの成り立ちを、進化の歴史を追って原始的なものから順に他の生物と比較しながら学ぶことで、人体の根源にあるしくみを理解する。さらに人間で著しく発達した人間らしさを司る大脳の進化の歴史から、脳と各器官との繋がりや心についても考察し、「人間」に対する理解をよりいっそう深める。

# 講義内容（抜粋）

※科目は一部変更になる場合があります。

## 高齢者の健康増進

要介護高齢者の増加は近年重要な社会問題となっている。要介護状態を未然に「予防」する観点から健康を維持するうえで最も重要な食生活について解説していく。

## 成人看護学

### ～体験から構築した看護理論～

看護学を社会的側面から研究し学んでいく。臨床現場で実際に働く視点から見つめた看護学講義。

## 生活習慣と健康

食生活や運動など日常の人間活動のなかで作られ、人間の健康と深い関連をもつ生活習慣についての知識を深め、小児期における健康教育から始まり、青壮年期における生活指導について学ぶ。高血圧、肥満、心臓病などの身体的な健康のみならず、老年痴呆をも含めて生活習慣と健康との関わりを解説する。

## スポーツと健康

われわれがスポーツを行う目的はさまざまであるが、肉体的にも精神的にも健康な肉体を保持するためにはスポーツ（運動）は欠かせない。ここでは、スポーツが及ぼす生理機能への影響を中心に、栄養、適性、疲労、練習方法などを学びつつ、病気とその予防についても言及する。

## 看護学概論

看護の対象となる人間の理解、健康の概念、社会環境に対する看護の位置づけと知識を修得する。看護が現代の医療の要請にどのような実践力を必要とするのかを理解し、社会情勢やヘルスケアシステムの現状を踏まえ、新しい看護の在り方について十分な理解を深めることを目的とする。

## 文化・社会の理解

### 東洋文化論

東洋文化を根底で支える中国文化について、特に中国思想に焦点をあてて考察する。東洋人の発想に深く根をおろしたさまざまな思考の壁を、体系的に理解することで、混迷の現代社会をよりよく、かつしなやかに生き抜く知恵を学んでほしい。主要な主題の考察を通して、東洋人の思考様式や、ひいては表現様式の特徴を浮き彫りにする。

### 西洋文化論

西洋のキリスト教社会が、中世から近代にかけて、政治的・経済的・軍事的に非常に強力な文化を形成し、現代もその文化が世界の隅々まで浸透している。西洋諸国の習慣や社会組織から、思想・宗教に至るまでのさまざまな文化現象を取り上げながら西洋文化の特徴を考察し、その将来像をも展望する。

### 日本文化論

「日本文化」とは何か、それはどのように概念化され、歴史と関わってきたのか、といった問題について、文学作品の分析を中心に検証する。主として和歌や俳句、近代詩を分析の対象とするが、日本の詩歌になじみのうすい人にもわかりやすく説明する。また世界の中の日本文学・日本文化といった視点も積極的に取り入れ、「外」から見た日本という問題についても多角的に考える。

### 国際関係論

国際関係を現実主義的な視点からみることの重要さを説いたE・H・カーの『危機の二十年』を読んでいく。第一次世界大戦のあと平和を保証するはずだったヴェルサイユ体制が20年で崩れ、新たな世界大戦を招いたのはなぜか、それを検討したカーの記述をなるべく原文に則して理解し、現代の世界をみる基本的な姿勢を養う。その一方で、現代史や国際関係に興味のあるテーマがみつければ、卒業研究につなげていく。引用文には原文をつけるので、併せて英語の文章に慣れるようになれば一石二鳥。

### 日本仏教の世界

東洋の主要な思想である仏教は、インドに起源をもち、アジア全域に広まって、中国・朝鮮を経て日本に伝えられた。伝播の過程で仏教はそれぞれの地域の思想的風土に育まれて、地域色豊かな仏教が生み出された。本講座では、日本仏教について仏教伝来・奈良仏教と貴族・平安仏教の成立・『日本霊異記』の世界・浄土の世界・神仏習合などのテーマで考察する。

### 比較芸術論

比較芸術論は、地域や国の枠にとらわれずに、東西あるいは古今の様々な芸術現象を取り上げ、より豊かでより深い芸術鑑賞と理解を目指し、最終的には、世界的な芸術的、審美的な視座の獲得を目標とする。

## 宗教人類学

本講義では、宗教を文化の1要素と捉えた上で、人間の心理や文化が、宗教的事象との関係性をどのように持つのかを、具体的例を通じて学び理解していく。その際には、個々の伝統宗教から人間生活との関わりの中に見られる今日的な宗教性まで含めたトピックスを、人類学的観点から扱う予定である。また講義では特に宗教・文化が人間心理と深い関わりがあると考えられるテーマについて、映像資料等も交えながら一緒に考えていきたい。

## 人間観

現代社会が直面している諸問題を突き詰めていくと、「人間とは何か」という問いに帰着する。これまで人類が行ってきた思索の歴史は、この問いに集約されるといっても過言ではない。キリスト教をはじめとする西欧的な人間観や、インド、中国、日本などの東洋の人間観を参照しながら、「人間とは何か」という問いに対する解答を模索する。

## 環境倫理学

先進国が枯渇型資源に依存しつつ、廃棄物を累積させていくという旧来からの体制を永久に続けられないことがわかった現在、世界中の国々の公共政策の基本には、持続可能性という長期的な尺度に基づく最善の選択が求められている。その軌道を描くためには、市場経済と民主主義と基本的人権の原則が守られるだけでは不十分で、各世代が環境倫理学の原則を理解しておくことが必要不可欠となっている。そこで本講座では、環境倫理学の基本概念を理解しながら、現代における地球資源や環境および生命に関するさまざまな課題を基本に戻り検証する。

## 現代社会と生涯学習

現代ほど、知識や技術の変化が激しい時代はかつてなかった。この時代を賢く生きていくためには、生涯にわたる継続的な学習が必要である。「人間は一生をかけて成長・発達しつづける」という考えのもとに、生涯学習の意義、生涯学習のサポートシステム、企業の文化支援、e-ラーニングなどを体系的に学ぶ。生涯学習事業に携わる人にとっても、自らの生涯学習を深めようとする人にとっても、生涯学習分野でボランティア活動をしようという人にとっても、役に立つ科目である。

## 地域の福祉

まさにわが国の社会福祉は、大きな転換点にさしかかっている。福祉サービスに対する利用者のニーズが高まり、その内容も多様化、高度化してきた。社会福祉のあり方も、特定の要援護者の公的救済を目的とした従来の社会福祉から、個人の尊厳を尊重し、すべての国民の自立した生活と社会参加を公民協働で支援する社会福祉へと大きく変化しつつある。国の方針としても、従来の施設中心の施策から、利用者が地域の中で自立した生活を送れるよう、地域生活支援の施策へと転換を図っている。これまでの行政による措置制度は、利用者がサービスを選択する契約制度へと転換が進められ、1998年の保育所に選択（利用）制度導入、2000年の介護保険法施行、2006年の障害者自立支援法施行などにつながっている。本講ではこうした動向を踏まえて、地域の福祉の概念と福祉サービスの仕組みについて学ぶ。

# 講義内容（抜粋）

※科目は一部変更になる場合があります。

## 住まいと環境

近年話題となった化学物質過敏症をはじめとする「人間の健康と住宅環境」の問題、ゴミ処理問題や環境ホルモンを中心とする「都市および地球環境と住宅」の問題などを取り上げる。歴史的背景を基にして、現実の諸問題の把握と今後の展開、さらには地球にやさしいライフスタイルについて講義を展開する。

## 高齢化社会と福祉・医療

「高齢社会」が到来して、高齢者の医療・介護・福祉対策について種々の提案がなされているが、どこの国も未経験のことだけに「お手本」は存在しない。高齢者の生活・健康の実態や現行制度の問題点などを探りながら、保護と自立促進の適切なバランスの上に立つ望ましい将来像を、みなさんとともに考えていきたい。

## 公害と環境問題

いまや地球規模に発展・拡大している公害・環境破壊問題。その責任は、もはや一部の企業や政府の責任にとどまらず、私たち一人一人が自ら問い直す時期にきているといえる。どのようにして環境破壊を食い止め、公害から地球環境を守るべきか、社会環境に目を向け、日常生活の意味を考察する。

## 社会保障・政策論

急激に進む少子・高齢化の進行や長期化する経済の低成長に伴って、現在、社会保障・制度の今後が問われている。「将来、年金は支給されるのか」「医療費の負担はこれから増加するといわれているが実際にはどうなるのか」「介護保険制度は果たして大丈夫か」といった身近な議論が続けられ、医療・年金・福祉など、個別分野での課題は枚挙にいとまがないほど噴出している。本講義では、いま、その課題解決に求められている個別の課題を明確に把握しつつ、全体像としての方向性を明確にする。制度論でなく、企画、立法など政策現場での実例によりながら実践的政策論をめざす。

## 伝承医学

近代西洋医学の著しい進歩、発展にもかかわらず、伝承医学は現在でも世界各地で実践されている。ここでは一般に東洋医学と呼ばれている中国伝統医学を中心に、その他のアジア諸国の伝承医学について、その理論と応用を学ぶとともに、伝承医学的観点から人間を理解する。

## 現代の養生訓

江戸時代から読み継がれてきた貝原益軒の「養生訓」や、平安時代に編まれた日本最古の医書「医心方」などの解説を通して、東洋（道教）の生命観「心身相関」を基本とするそれらの健康観・身体観を、現代にどのように生かしていくかを考える。具体的には、前半で「養生訓」「医心方」の解説をおこない、「未病治」＝予防医学などの思想を概観し、後半では食生活やストレスのコントロール、医薬との付き合い方など、各論の検討をおこなう。

## 比較文化論

文化とはある社会の人々が共通に持っている特徴的な生活様式のことだが、私たちは、異文化に触れてはじめて自らの文化の特質を明確に自覚できる。異文化を知ることは、自己の文化をも知ること。日本と西欧、アジアなど異文化との比較を通して、各々の文化の特質を考察し、双方に関する理解を深める。

## 社会教育主事課程科目

### 社会教育計画

生涯学習社会構築のため、教育の大きな3つの柱、すなわち、家庭教育、学校教育、社会教育のうちの社会教育について深く理解し、地域で活躍できる人の資質、能力の向上を目指します。社会教育計画は、その中核をなすもので、人々の学習支援のための学習プログラム企画立案に不可欠なポイント、生涯学習施設連携・ネットワーク方策、人々の学習を支援する指導者、それらを側面から支援する行政のあり方について深く理解し、地域活動力（発想力・企画力・実行力）を育成することを目標とします。

### 社会教育課題研究

UNESCOが提唱してきた生涯教育の系譜を概観するとともに、日本の生涯教育がどのように展開してきたか学習します。さらに、アメリカの成人教育学（Andragogy）におけるSelf-Directed Learning（自己決定型学習）の基本的考え方や青少年の育成を喫緊の課題とする学社連携・融合の考え方を学び、日本型生涯学習社会構築の方向性を探ります。同時に地域で活動する力（＝活動力）の増強も目指します。

### 家庭教育と社会教育

家庭における教育は、本来家庭の責任に委ねられており、それぞれの価値観やスタイルに基づいて行われるべきものであるが、人々の価値観の変化に伴い、親の家庭教育に関する考え方にも変化が生じている。また、本来、家庭教育の役割であると考えられているものまで学校に委ねようとする傾向も指摘されている。このような状況の中、家庭教育に関する学習機会の充実や子育てネットワークづくりなどが求められており、社会教育がどのようにして家庭の教育力の充実を支援していくかについて考察する。

### 職業指導

現在の職業指導は心理学、教育学、社会学などに支えられた総合人間科学である。歴史的には20世紀初頭アメリカで始まり、その後その背景となる考え方や理論は変遷してきた。現在では、職業選択のみに関わるかつての「職業指導」は、個人の発達に即したそれぞれの時期に、人間の幅広い側面に答える「進路指導」に変化している。本講義では、職業指導（進路指導）の現状と現在の問題点、今後の動向について考え、学校教育での理念、実践等についても認識と理解を深める。